

6/15 海の資源保護と生物の命について学ぶ 久良小学校の児童がヒラメの稚魚を放流

久良漁港で、久良小学校の児童14人がヒラメの稚魚3,000尾を放流しました。

この取り組みは、ヒラメの稚魚を放流することで海の資源保護と生物の命について、児童に学んでもらうことを目的に久良漁協が毎年行っています。

この日は久良湾沖に出て、約10～20センチメートルに成長したヒラメを児童らが放流しました。

6年生は、「放流したヒラメが大きくなってほしい。また稚魚の放流をさせていただき、漁協の皆さんありがとうございます」と感想を述べました。



▲ヒラメの稚魚を海に放流する児童

6/18 自分たちの代表を選ぶ 生徒会模擬選挙を通じて18歳選挙権を学ぶ

主権者教育講座を通じて社会に主体的に参加する意識を高めることを目的に、南宇和高校の2年生110人が選挙事務や投票を体験しました。

立候補者による立会演説終了後、投票の流れや注意事項について説明を受けた生徒は、生徒会長と副会長を選ぶため、実際の選挙と同じ方法で模擬選挙を実施しました。

最初の選挙人として2年生全員の前で投票を終えた円山利友さんは、「事前に選挙に関して、授業で学んでいましたが、代表として空の投票箱を確認したことで、一票の重みをより一層感じることができました」と感想を述べました。



▲投票用紙を受け取る円山利友さん

6/22 原木しいたけ栽培のほだ木育成の部で ハートinハートなんぐん市場が県知事賞受賞

NPO法人ハートinハートなんぐん市場が6月16日付で「第63回愛媛県しいたけ共進会審査会」ほだ木育成の部で、愛媛県知事賞を受賞しました。

この審査会は県産乾しいたけの生産技術と品質の向上を図るとともに、ブランド力強化を目的として開催されています。

南予地方局森林林業課の山岡愛嗣課長から、田上純一さんに表彰状と記念品が授与されました。

今回の受賞について田上さんは、「全国的にしいたけ栽培を行う人が減少している現状の中、自分たちが少しでも次の世代に繋げていけるよう尽力していきたい」と話しました。



▲代表して表彰状を受け取った田上純一さん

6/25 水産業の現場から学ぶ SDGs 次世代の水産業の人材を育てる会



▲マダイ養殖や、海の環境保全について学ぶ生徒

次世代を担う高校生に町の基幹産業である水産業について知ってもらおうと、南宇和高校で「次世代の水産業の人材を育てる会」が行われ、1年生86人が参加しました。

会では愛南町役場水産課の長田岩喜^{いわき}課長がマダイ養殖を中心に養殖の歴史や、持続して安全安心なマダイを育てるための取り組み、世界人口の増加に伴う養殖業の重要性について説明しました。

参加した橋本怜奈^{れいな}さんは、「改めて、町の魅力を知れて良かった。水産業において環境を意識し、さまざまな取り組みをされていて驚いた」と感想を述べました。

地域おこし協力隊 活動日記



皆さんこんにちは、地域おこし協力隊の松本真依^{まゐ}です。先日、地域おこし協力隊の3人で、浜清掃を行いました。浜にはペットボトルや家庭ごみ・漁具のごみなどが多く残っている状態でした。1時間ほど作業を行い、

4袋分のごみが集まりました。改めて愛南町の綺麗な海を守り続けていくことの大切さを感じました。

その後、海の漂流物を集めるビーチコーミングを行い、貝殻や流木、ヒオウギ貝の殻、シーグラスなどを収集しました。時には思いもよらないものを見つけることができ、まるで宝探しをしているかのような気持ちで楽しみながら浜をきれいにすることができました。

収集したものは、アートワークとして使うこともできます。現在、ゆらり内海では毎月第2・第4日曜日に、シーボーンアート(Sea Born Art = 海から生まれたもの)教室を行っています。私たちも参加させていただき、フットランプ^{ひろみ}を制作しました。ご指導いただいた大石博美^{ひろみ}さん、酒井やよみさん、丁寧に教えて下さりありがとうございました。

皆さんも、海辺に行った際は浜に目を凝らしてみてはいかがでしょうか。新たな発見があるかもしれません。



▲フットランプを制作する様子